主催：なら思春期・不登校支援研究所

2025年度　スクールカウンセラーのための勉強会

オンライン開催

　2021年度から始まったこの勉強会は、コロナ禍によってオンライン開催となりました。オンラインとなったことによって日本各地から教育現場で臨床をされている方々にご参加いただきました。「スクールカウンセラーのための勉強会」となっていますが、実際には教員や教育現場に関わっているさまざまな職種の方にご参加いただき職種をこえて学び合う機会となっています。今年度で5年目を迎え、今年度も、昨年度お迎えした先生方と、また新しい先生方もお迎えして、学びの場を提供いたします。日々、教育現場で起こるさまざまな課題に対し、専門職として仕事を続けるには、学び続ける意欲と安心して支え合える仲間が必要です。ぜひ奮ってご参加ください。

＜専門家から学ぶ　現場で役立つ実践と勘どころ＞

日程　月1回日曜日　年10回開催（前期5回、後期5回）
2025年　5月11日・6月８日・7月13日・8月10日・9月14日（前期5回）
2025年　10月12日・11月９日・12月14日　2026年　1月11日・2月15日（後期5回）

●　オンラインによるライブ配信　毎回　AM10:00～12:00

	（すべて日曜日）	担当講師の先生	タイトル
1	2025年5月11日	杉原保史先生	「心理支援における見立てを考える」
2	6月8日	諸富祥彦先生	「ほんものの傾聴を学ぶ」
3	7月13日	野坂祐子先生	「学校でできるトラウマインフォームドケア」
4	8月10日	明橋大二先生	「不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス」
5	9月14日	岡留美子先生	「精神科診察室から～こころの傷を手当てするということ」
6	10月12日	松本俊彦先生	「自傷・自殺する子どもたち」
7	11月9日	岩宮恵子先生	「子どもたちが生きている“社会”の様相と彼らのこころ」
8	12月14日	花丘ちぐさ先生	「IFS・内的家族システム-病理化しないで自分を愛する心理療法-」
9	2026年1月11日	良原恵子先生 吉野徳一郎先生	「不登校支援の実際～学びの多様化学校でのSCの取り組みから考える～」
10	2月15日	新井肇先生	「学校の危機と緊急支援について考える」

＊原則としてオンデマンド配信は致しませんのでご了承ください

○　対象者　教育現場など子どもに関わる専門職の方
（SC、SSW、教員など守秘義務を守れる方）

○　参加費　前期5回　25,000円、後期5回　25,000円
全10回　申し込みの場合　45,000円

＊臨床心理士資格更新ポイント申請予定（通年受講）

＊振り込みが確認されてから
申し込みが確定します
＊振込先は、お申込みの後
メールにてお知らせいたします

お申込み方法

メールフォームに下記の項目を明記ください
申し込み先：右のメールフォームもしくはQRコード　より
※締切：４月27日（日）　定員80名
＜先着順、定員になり次第締め切ります＞

申し込みメールフォーム
https://forms.gle/VBpnYmfXMcQGdDHS7

メールフォームに下記の項目を明記ください
1）返信用アドレス（資料添付が可能なもの）
2）氏名　3）フリガナ　4）携帯番号
5）参加希望　全10回　前期のみ　後期のみ
6）職種　7）勤務地または居住地
8）お持ちの方は臨床心理士番号
9）この勉強会を知ったきっかけ

お申し込み
QRコード

お問い合わせ先
なら思春期･不登校支援研究所
sayurikuri@gmail.com　**研修担当栗本まで**

前期　担当講師・講義内容

1回目　5月11日　杉原保史先生　京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門 部門長

多くのカウンセラーが見立てに苦手意識を持っています。私は、心理職一般にかなり浸透しているように見える以下のような考え方にはかねてより疑問を抱いています。①見立ては初回面接の終わりにたてるもの、②見立てはセラピー他の要素（受容・共感・承認・傾聴・探索・介入など）から独立した作業、③見立ては客観的で科学的に正しいことが最も重要なもの、④見立てはクライエント抜きでカウンセラーが単独でする作業。こうした考え方をしていたら、見立てを苦手と感じるようになるのは当然です。現場で実際に役にたつ、生きた「見立て」について、あらためて考えてみましょう。

２回目　6月８日　諸富祥彦先生　明治大学文学部教授

スクールカウンセラーをしていると目の前の子どもたちへの対応に汲々としがちです。
もちろんそれは自然なことです。しかし雑多な面接に追われて、「深く聴く」ことが忘れられてしまうとカウンセラーとして、なにか物足りない存在になりかねません。「深く聴く」ことを改めて学びなおす研修会にしたいと思います

３回目　7月13日　野坂祐子先生　大阪大学大学院 人間科学研究科教授

犯罪や事故、災害などによるトラウマ体験だけでなく、暴力的で不安定な家庭環境で育つという逆境体験をもつ児童生徒は、少なくありません。そうした体験が心身の発達に及ぼす影響は深刻ですが、表面上は適応的にみえたり、“問題行動”として捉えられたりすることが多く、適切なケアがなされないばかりか、教員や学校全体もトラウマの影響を受けて疲弊してしまいます。トラウマの影響を理解して関わるトラウマインフォームドケア（TIC）に取り組み、学校を安全な場にしていきましょう。

４回目　8月10日　明橋大二先生　真生会富山病院心療内科部長

不登校の背景にある身体的な基盤（ポリヴェーガル理論）、ＨＳＣ、回復の道程、親の支援、多様な学びに向けた現状などについて話したいと思います。

５回目　9月14日　岡留美子先生　岡クリニック院長　精神科医

私たちは日々心に傷を受けながら生きています。たいていは小さな傷ですが、時にはとてつもなく大きな傷を受けてしまうことがあります。レジリエンスに支えられて傷は回復に向かいますが、回復の過程は一筋縄ではいかないことも多いです。精神科を受診する子どもたちの心の傷にどうむきあったらいいのか、模範解答はありませんが一緒に考えていけたらと思います。

後期　担当講師・講義内容

6回目　10月12日　松本俊彦先生　国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部　部長

自殺のリスクのアセスメントや自殺企図を打ち明けられた時の対応の仕方、リスクマネージメントの原則などのポイントについて概説したいと思います。

7回目　11月９日　岩宮恵子先生　島根大学人間科学部教授

子どもたちの不調の裏側には、どういうことがあるのでしょうか。
子どもたちの言葉から、学校という社会がどうなっているのか、SNSや推し活などが彼らにとってどういう意味をもっているのかを考え、理解と応援の方向性を見出していけたらと思います。

８回目　12月14日　花丘ちぐさ先生　「国際メンタルフィットネス研究所」代表

IFS内的家族システムは、米国のRichard Schwartz博士が考案した心理療法です。私たちの心の中には様々なパーツ（副人格）がいて、時には問題とも思える言動をしてしまうのですが、それは、幼いころからの傷つきの痛みをやわらげ、もう二度とそのような思いをしないようにその人を守ることが動機になっているといいます。すべてのパーツを歓迎し、どのパーツもポジティブな意図があることを理解し、どのように強烈な言動をしても病理化せず、セルフ（大いなる自己）と統合していくことによって問題を解決していきます。トラウマ、発達性トラウマ、人格障害、依存症、摂食障害、身体表現性疾患等、様々な問題に効果を示しており、アメリカでも受講希望者が1万人を超えると言われており、熱い期待が寄せられています。

9回目　2026年1月11日　良原恵子先生　大阪府教育委員会　教育政策アドバイザー　吉野徳一郎先生　公立学校スクールカウンセラー

令和6年に開校した学びの多様化学校（不登校特例校）でのSC活動の経験から、“不登校”に対してSCができることを改めて考えます。SCとして関わる“不登校”のあり様やそれに対する具体的なアプローチについて、みなさまとともに学ぶ時間にしたいと考えています。

10回目　2026年2月15日　新井肇先生　関西外国語大学外国語学部教授

自然災害、事故、事件、自殺など、学校という場で生じる危機の内容と児童生徒や保護者・教職員などへの心理的影響について検討したうえで、発生した危機への対応において必要とされるチームによる緊急支援の方向性とその際にスクールカウンセラーに求められる役割について考えてみたいと思います。

なら思春期・不登校支援研究所　とは…

本研究所は、子どもたちを支える保護者や、教員・スクールカウンセラーなどの専門職をサポートするための研修の機会を提供します。職種や立場をこえて、みんなで学び支援の輪を広げていくための、拠点の一つとなれることを目指しています。

アドバイザー：伊藤美奈子・粕谷貴志・栗本美百合・阪中順子　相馬誠一・竹下三隆・良原恵子（五十音順）